

千葉農業事務所

普及だより

URL <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-chiba/>

【第155号】 2022年8月1日

発行：千葉農業事務所改良普及課
千葉地域農林業振興普及協議会
千葉市緑区大金沢町473-2
(千葉農業事務所 分庁舎)

TEL043(300)0950
FAX043(293)2710

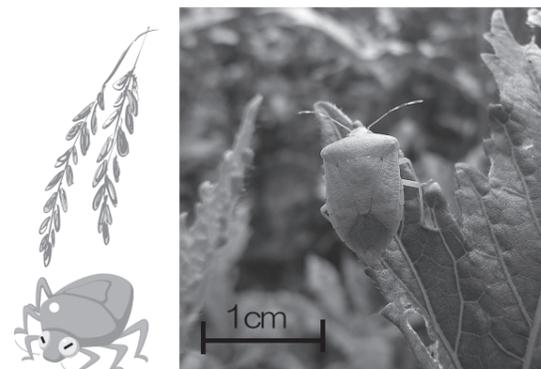
水稲を加害する大型カメムシ類に対する防除技術

斑点米カメムシ類は、イネが出穂を始めるころに水田に侵入し、水田内で産卵します。卵からふ化した幼虫は、乳熟期以降の穂を登熟期まで吸汁加害します。

近年、千葉、東葛飾、印旛地域の一部では、イネカメムシ(写真1)が優占種となっているほか、ミナミアオカメムシ(写真2)が分布を拡大し、被害の発生が懸念されています。イネカメムシやミナミアオカメムシ等の大型カメムシ類は斑点米(写真3)を発生させる能力が高いとされています。千葉県農林総合研究センター病害虫防除課の調査によると、斑点米の発生率は、令和元年度は過去11年中最多、令和3年度についても3番目に多い年となるなど増加傾向にあります。斑点米



(写真1) イネカメムシ



(写真2) ミナミアオカメムシ

の混入は米の品質低下につながるため、下記のとおり防除し、斑点米の発生を防ぎましょう。出穂期が周囲と異なる水田は集中的に加害される可能性があるため、特に注意が必要です。

1 耕種的防除

斑点米カメムシ類はイネ科植物を好みます。ほ場周辺にあるイネ科雑草は斑点米カメムシ類の発生源となるため、除草を徹底することが重要です。一方、出穂期前後に草刈りをするると斑点米カメムシ類は生息場所を失って水田の中に一斉に侵入し、被害を助長する可能性があります。このため、イネの出穂2週間前までに畦畔の除草を済ませましょう。

2 薬剤防除

斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、穂ぞろい期(ほ場全体の80~90%が出穂している時期)と乳熟初期(出穂10日後ごろ)の2回防除が必要です。航空防除が実施されている地域においても、飛来成虫や乳熟期以降の幼虫が多い場合は、追加防除を検討しましょう。



(写真3) 斑点米

収入保険の保険料に対する助成が始まりました

農業経営収入保険(以下、収入保険)は自然災害による被害や市場価格の下落による収入の落ち込みなど、農業経営上の様々なリスクを軽減する制度です。今年度、県では、新たに収入保険へ加入する農業者の方々に対して、初年度保険料の一部を助成する事業を開始しましたのでお知らせします。なお、助成には要件がありますので、詳細はQRコードから県HPをご覧ください。



青年農業者の経営確立に向けて

〜青年農業者等スキルアップ研修を開催しています〜

農業事務所では、青年農業者が農業経営体育成セミナー等で作成した経営計画を実現させるために必要な知識・技術の向上を図るため、青年農業者等スキルアップ研修を開催しています。

令和3年度の研修では、新規就農者が経営でつまずきやすい事項を一覧にしたチェックリストを活用して、自身の経営のリスクを確認するとともに、新規参入で課題となる労働力の確保について専門家を招いて講義を行い、雇用を導入するための準備や基本的な労務管理について学びました。

事例視察では、露地野菜を生産しながらカット野菜の製造やスイーツの開発、直営店の運営などの多角化に取り組む経営者に、経営の考え方や、企業や地域の農業者との連携などについて話を聞き



視察で経営者としての考え方を直接学ぶ

ました。研修生からは、人を雇う上で重要なポイントなどについて質問が出され、経営者としての姿勢や考え方に刺激を受けた様子でした。

また、研修生自身による事例紹介も行いました。加工業者との契約取引をしている研修生からは、原価計算や販売価格の決定、販売先の選び方などの実践的な話があ



研修生による事例紹介と意見交換

り、配偶者が就農する際に経営方針を見直した研修生からは、J Aと連携して生産計画を作成した経緯や、専門家の活用方法が紹介されました。研修終了後も話し合っくりにも役立っていました。

令和4年度は、雇用の導入や労務管理をテーマに、4回の研修を行う予定です。

農業事務所では、これからも青年農業者の経営確立に向けた支援を行ってまいります。

なしといちごの2刀流経営!

市原市 山越和利さん

市原市廿五里の山越和利さんは、配偶者の生枝さんと後継者夫妻の4人で、なし173aといちご25aを栽培しています。どちらも高い技術力が求められるため、後継者の正三さんと一緒に、常に新しい技術を試験して、品質の高い農産物を栽培するための技術を導入しています。

なしといちごの複合経営は大変?!

販売は、山越さんの経営する直売所と市内の道の駅「あずの里いちご」です。なしといちごの複合経営は、販売期間が長く、消費者に直接販売できるという利点があります。一方で、なしの受粉作業といちごの収穫や販売が競合する問題があります。そこで、消費者に小面積ずつのオーナーになってもらい、いちごを収穫してもら

うことで労働を軽減し、なしの受粉作業に専念できるよう工夫しています。

地域農業を学んでほしい!

市内小学校の社会科見学を毎年20校ほど受入れており、見学に来た学校には、市原のなしの美味しさを知ってもらったため、なしを贈っています。中学生の体験学習も毎年3校を受入れるなど、農業を積極的に学んでもらう食育にも取り組んでいます。

今後の経営について

現在は、多くの顧客に支えられて経営は順調です。しかし、大口顧客の高齢化と贈答の習慣が薄れてきているという問題を感じています。今後は、もっと若い世代になしの美味しさを伝えたいと考えています。



ほ場で仲良く作業されている山越さんご夫婦

露地野菜経営の発展に向けて

千葉県 大塚秀行さん

千葉県緑区の大塚秀行さんは、秋冬にんじんを共選出荷するほか、落花生やすいか、トマト等を直売所へ出荷しています。大塚さんは元々、建設業に従事していましたが、地域の農業を未来に残したいとの思いから実家の農業を継ぎ、今年で就農14年目を迎えます。

平成26年には千葉県農業士に認定され、今年からJA千葉みらい東部地区出荷組合連合会の会長を務めています。

雇用導入による経営の発展

売上の増加と経営の安定化に向け、経営規模の拡大に取り組み、平成24年から雇用を導入しています。従業員の作業分担を明確にすることで、働きやすい環境づくりと作業の効率化を進めました。さらに作付体系を見直し、新たに落

花生の栽培と秋冬にんじんの共選出荷を始めました。現在では、秋冬にんじん2ha、落花生1.2haまで作付規模が拡大し、経営の主幹品目となっています。

雇用を通じた就農支援

大塚さんは雇用導入の際に、農の雇用事業を活用し、就農希望者に対して実践的な農業技術や経営のノウハウを伝えています。今年度、大塚さんの元で研修を修了した方が新たに千葉市で独立就農しました。新たな担い手育成にも力を入れていく大塚さん。今後の活躍に目が離せません



スイカの管理作業を行う大塚さん

肥料コスト低減対策

肥料価格が高騰しています。そこで、化学肥料を低減する2つの対策について紹介します。

対策1 土壌分析による過剰施肥

対策

土壌分析を実施して、土壌中の肥料成分の過不足を判定し、施肥量を決定します。

特に、施設土壌は、肥料成分が蓄積しやすいので、土壌酸度（PH）や電気伝導度（EC）を測定することにより、過剰施肥を防止します。土壌酸度は7を超えるとアルカリ性となり石灰が多いことが分かります。電気伝導度が高い場合は、土壌中の硝酸態窒素が高い濃度であることが分かります。その他、硝酸態窒素、リン酸、加里、石灰、苦土、塩基飽和度を分析すると、施肥量が決定できます。土壌分析は、地元のJAに依頼

するか、千葉市の生産者は、千葉市農政センターへ依頼してください。

対策2

たい肥利用促進ネットワークによる化成肥料の代替対策

家畜ふん堆肥の利用により、肥料コスト低減が可能になります。乾燥鶏糞は、家畜ふん堆肥の中では窒素成分は多いですが、石灰量も多いので、使用量が多い場合は、土壌酸度を上昇させてしまうため注意が必要です。牛糞堆肥や豚糞堆肥でも肥料の代替が出来ます。家畜ふん堆肥の種類により含まれる成分量が異なるので注意が必要です。千葉県庁ホームページの「たい肥利用促進ネットワーク」を参考にしてください。十分に腐熟した堆肥を利用することが重要なポイントです。腐熟が不十分だと雑草が発生したり、生育障害が起こることがあるので注意してください。



施設園芸における暖房の効率的な利用について

昨今、重油等の燃料が大幅に値上がりしています。効率的に暖房を利用し、燃料の使用量を削減しましょう。

1 ハウスの保温性向上

ハウスを長年使用すると、外張被覆、天窓、出入口等に隙間や破れが生じ、そこから熱が逃げてしまいます。加温開始前にハウスを点検し、隙間や破れを修復しましょう。また、使用していない出入口の目張りや、外張被覆留具の固定などもハウスの保温性を高めます。

内張カーテンは、側面と天井面のつなぎ目、出入口、カーテン裾部、ハウスの谷間部分に隙間が生じやすいので日頃から点検しましょう（図参照）。また、開閉により外気が侵入しやすい出入口付近や妻面に内張を展張すると保温効果が高まります。

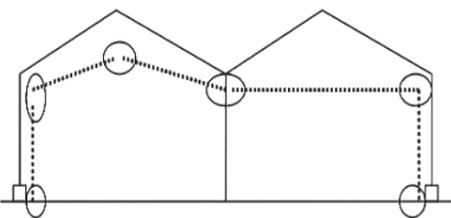


図 内張カーテンにおいて隙間ができやすい部分
(出典 施設園芸省エネルギー生産管理マニュアル 農林水産省)

2 内張カーテンの多層化

内張カーテンを多層化し、保温効果の高い資材を選択することで保温性が向上します。側面や妻面も多層化すると、より高い効果が得られます。

3 暖房機とダクトの点検

暖房機は、缶体や燃料ストレーナの掃除、燃料噴射ノズルの交換を定期的に行います。温度センサーは適切に設置されているか、正しく作動しているか点検しましょう。経年劣化したダクトは交換し、温度分布が均一になるよう配置を調整しましょう。